

昨年のクルーズ船に係る寄港回数が増え、福岡市の博多港が279回で今年も日本一となった。北九州市においても若松区と門司区にクルーズ船受け入れの岸壁があり、一昨年より年30回前後を数える。直近では中国発着ツアーの減少といった懸念があるものの、若松区のひびきコンテナターミナルでは水深が深いことから大型船の寄港が可能であり、この3月には全長約345歳のイギリス船籍「クイーン・メリー2」の初寄港を予定している。

### 外国人観光客が増加

北九州市では、その他北九州空港におけるLCCの就航などもあり、外国人観光客が近年増加の一途を辿っている。北九州市産業経済局観光



日本を産業国家へ導いた官営八幡製鐵所

課の調べによると、15年の25・2万人から16年は34・9

## 一般財団法人日本不動産研究所④ 地域資源を生かす ～まちづくりからインバウンドまで

### 北九州市 社会の羅針盤

鐵所は日本を産業国家へと導き、重工業の礎を築いた功績もあり、15年にユネスコ世界遺産委員会において、世界文化遺産（明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業）に登録された。17年には関門地域が「関門ノスタルジック海峡」時の停車場、近代化の記憶」として日本遺産に認定され、取り分け「門司港レトロ」は観光客を呼び込む上で大きな牽引役を果たしている。3月には門司港駅舎が建築当初の姿に復元され、グランドオープンを迎えることから、多くの観光



復元される門司港駅舎④  
天守閣がそびえる小倉城



なかつたその他地方は数え切れない。「二匹目のどじょう」では県内に福岡市を抱えるが故、そもその限界があり、異なる戦略も必要である。か

### 転出超過が全国2位

## 待ったなしの転換、見直し

万人に、17年では68・2万人に、17年では68・2万人（前年比195・4%）を記録し、6年連続の増加となった。国籍別では韓国33・1万人、台湾16・8万人、中国13・4万人と近隣諸国からの旅行者が中心で、小倉のアーケード街でも免税店などでキャリーケースを持つ二人組や家族連れのクルーズ船客を多く見かけるようになった。

かるなか、JR「小倉」駅前では地元百貨店の撤退及び新たなテナントづけが今後予定されており、当該店舗に限らず、将来を見据えた北九州市の転換や見直しは、まさしく待ったなしの状況にある。

### 街の魅力を失う

北九州市が誇る遺産等で主なる観光名勝は、官営八幡製鐵所、門司港レトロ、小倉城などが挙げられる。官営八幡製鐵所の傍目に、恩恵にあやか

18年に係る日本人の転出超過を調べた住民基本台帳人口移動報告によると、全国市町村のうち北九州市は長崎市に次ぐ2位であった。昨年の報告では北九州市が1位であ

たことから、同結果は市勢にかかわる大きな問題と言える。人が離れば、「街」としての魅力を失うだけでなく、外国人観光客や海外に向けた発信にも影響を及ぼすからである。人口の増加は、福岡市がそうであるように投資マネーの流入など、多数の波及効果があり、結果経済が潤い、また人を呼び込む。

北九州市は政令市の中で出生率がトップであり、子育てでも次世代育成環境ランキング（NPO法人エガリテ大手前調べ）で総合1位にある。当該指標からも若年層の定着や流入が今後の鍵であり、是非それら若い人たちににより外国人観光客へのおもてなしがなされることを願ってやまない。人口が減り、高齢化が進む日本の縮図として、この都市の未来は社会の羅針盤のかもしれない。（北九州支所、不動産鑑定士・松尾春仁）